



## 新しい創造、復活の栄光 出エジプト記

出エジプト記.

2014.2.13

A: 1: - 18: 主は、モーセを遣わし、奴隷の家から連れ出した。(救主、王、祭司、預言者)

B: 19: - 40: 主は、律法を与え、荒野で民とともに住んだ(幕屋、家、民)

ヨハネ1:  
↓

A: 光が世に打ち勝つ。神の子どもを産む。 1:5, 9-13

B: ことばが民の間に幕屋し、栄光が満ちた。 1:14  
(モーセの律法/恵みとまじり 1:17)

↓

新しい創造、復活の栄光

↑

モーセの歌

15:1 主に歌え。

:18 主は王である。

ハレルヤ!

オ4巻

詩105

詩106

出エジプト A: 主のことばによりしるしと不思議。

荒野 B: 主の不思議と恵み、ことばと信じてまい。

出エジプト記の分析をしていますけれど、1章から18章までを細かく見て、19章からのところはこれからなのですけれども…。1章から18章まで、特に出エジプト記という感じですね。モーセが遣わされて、民を奴隷の家から連れ出すというのが、出エジプト記の前半です。モーセが遣わされた、モーセが生まれた。そして、パロと戦って民を連れ出しなさいと言われて奴隷の家から連れ出す。救い主である王、祭司、預言者であるということが、主が救い出してくださったというテーマで流れていきます。

出エジプト記.

2014.2.13

A: 1: - 18: 主は、モーセを遣わし、奴隷の家から連れ出した。(救主、王、祭司、預言者)

B: 19: - 40: 主は、律法を与え、荒野で民とともに住んだ(幕屋、家、民)

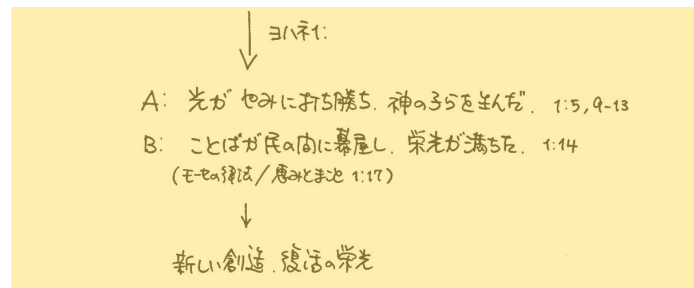
19章からのところは、律法が与えられて神様が現れてくださって、みことばを与えて幕屋を作りなさい、幕屋に住んでくださいますということです。19章からのところは、主がみことばを与えて、連れ出した後の荒野で、民と共に住みました。主の住まいを作ってくださいました。民は、荒野ですけれども一番の祝福である神と共に住むという祝福を与えられましたというのが後半です。

出エジプト記

2014.2.13

A: 1: - 18: 主は、モーセを遣わし、奴隷の家から連れ出した。(救世王・祭司・預言者)

B: 19: - 40: 主は、律法を与え、荒野で民とともに住んだ(幕屋・家・民)



この大きな二つ、救い出すことと民と共に住むということは、福音書の時代、イエス様が来た時に成就するわけですが、ヨハネ福音書1章、(皆さんがよく知っているところですが) その箇所を見るとこの二つのテーマがよく見られるだろうということです。

まず、1章の前半です。「光は闇に打ち勝った。そして、神の子ら、光の子らを生みました。」というのが前半です。1章の後半は、「ことばは民の間に幕屋した。そして栄光が満ち満ちた。」というのが、14節からのところに書いてある後半です。その中でも、律法はモーセによって与えられて、恵みとまことはイエスキリストによって成就しましたという言い方もありますので、このモーセの律法、それと幕屋したということばを見ると、出エジプト記の救いの雛形というのがよくわかると思います。ヨハネ1章のめがねで見ると、このモーセのパロとの戦いは光と闇の戦いだったのだということがわかりますし、栄光が満ちたと言っているところは、雲と光の柱で導かれて連れ出されますよね。光が連れ出したということと、幕屋を作った時に栄光が満ちる、栄光の雲が現れて栄光が満ちあふれるというのが出エジプト記の後半ですが、そのことがヨハネ1章にも宣言されているところです。

新しい創造、復活の栄光があらわされたというのが、出エジプト記の目指している中心的なテーマで、それはキリストの時に成就したということです。

## 新しい創造、復活の栄光

モーセの歌

15:1 主に歌え。

:18 主は王である。

↑

ハレルヤ!

第4巻

詩105

出エジプト A: 主のことばによりしるしと不思議

詩106 荒野

B: 主の不思議を忘れ、ことばを信じない。

別の箇所、詩篇第4巻、105篇と106篇。これは、4巻の終わりのところに記されていますけれど、105篇はエジプトから連れ出したというほう、106篇は荒野で導かれていることが書かれています。主のことばによって命じられたので、しるしが行われたというのが105篇で繰り返し出てきます。しるしと不思議。106篇は、そのしるしと不思議を忘れてことばを信じない民について書かれています。

その第4巻の105,106はハレルヤという詩篇です。出エジプト記の中に最初のハレルヤの詩篇のようなモーセの歌があります。15章、エジプトから連れ出された時の勝利の歌。敵が裁かれて民が連れ出されましたという歌がモーセの歌ですけれど、15章の出だし、主に歌え、主に向かって歌え。そして、最後のところは、主はすべてを治めている、主は王であるという言い方で終わりますモーセの歌。105篇106篇が入っている第4巻。これは、主は王である、主はすべてを支配して民を作ってくださった。救ってくださったという言い方もできますけれど、100篇に象徴されているように、主は民を作られたというのがハレルヤ。主を褒め称える、主を賛美するというときには、主の新しい民が作られた歌だということが言えますので、ハレルヤの事件の最も象徴的なエジプトから連れ出されて、新しい民が作られたこと。ヨハネ福音書で言われている、イエス様が来て新しい民を、新しい教会を作ること。モーセの歌、詩篇で歌われているハレルヤというところを見て、出エジプトのテーマを考えると良いと思います。